岡山市地域ケア総合推進センター 市民公開講座

人生最終段階の準備はできていますか。
～在宅医療と「ＡＣＰ」～

日時：令和3年9月25日(土)　13:30～16:00

場所：岡山市地域ケア総合推進センター 研修室、オンライン（Zoom）

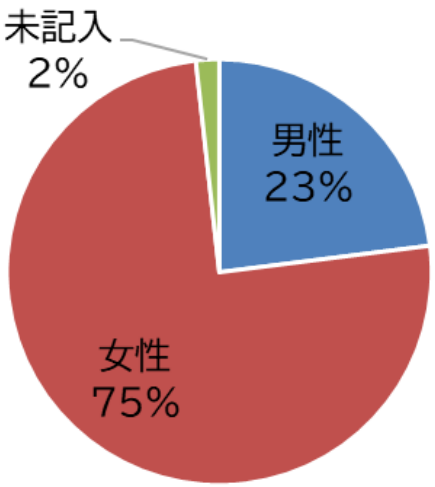
13:30～	開会
13:35～13:45	岡山市の現状説明
13:45～15:30	永井 康徳先生 講演
15:30～15:40	岡山市版ACP
15:40～15:55	質疑応答
16:00	閉会

講演　人生最終段階の準備はできていますか。
　～在宅医療と「ＡＣＰ」～
講師　医療法人ゆうの森　たんぽぽクリニック
理事長　永井 康徳　先生

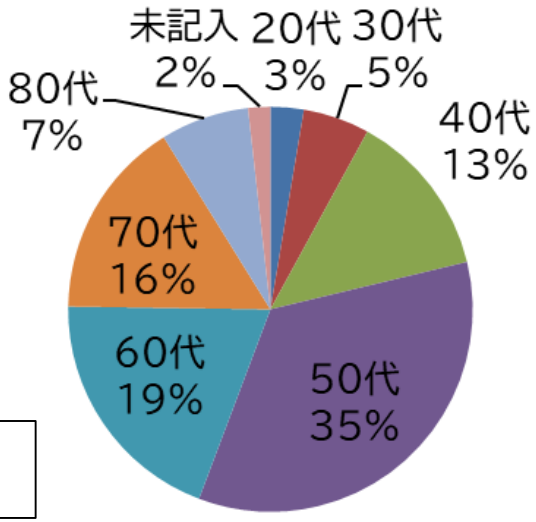
参加後のアンケート①

参加者：124名
回　収：107枚

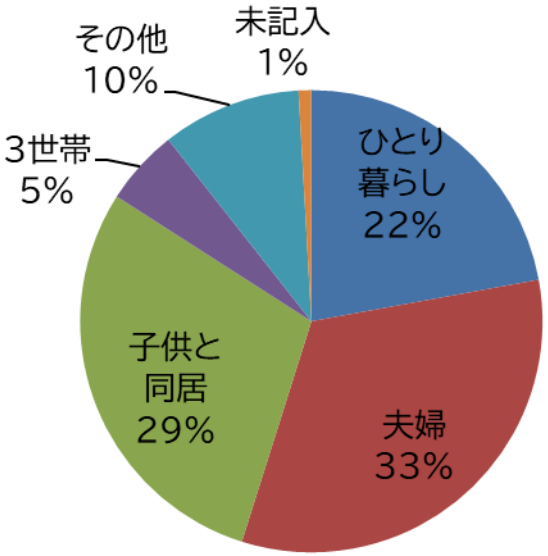
性別



年代



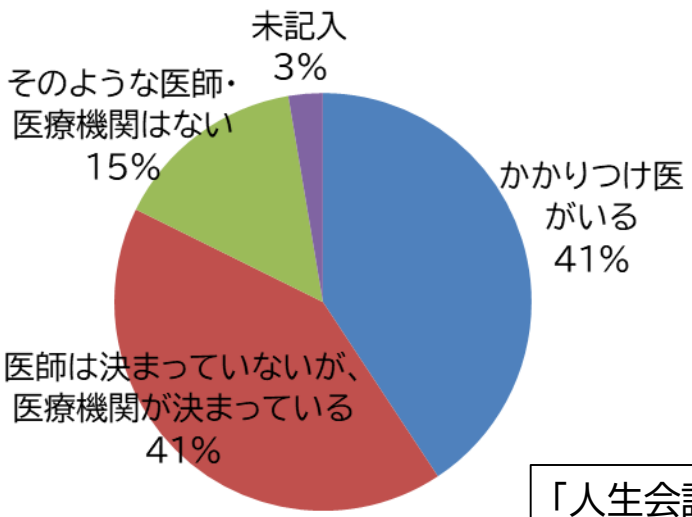
世帯構成



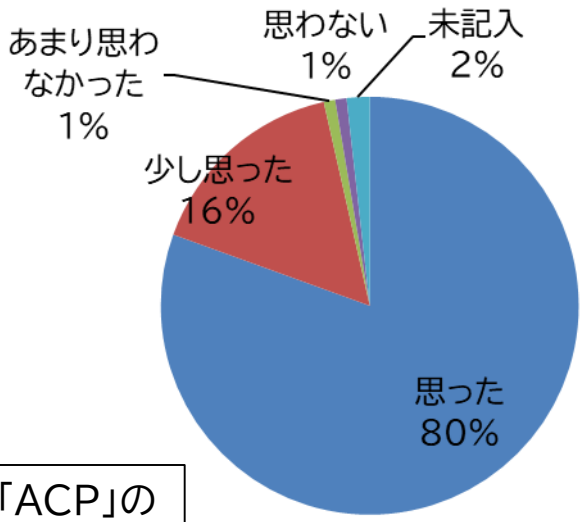
参加後のアンケート②

参加者：124名
回　収：107枚

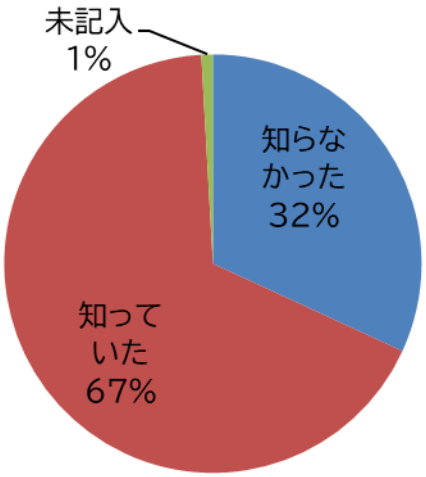
健康状態や病気の事で気軽に相談でき、
決まって診察を受けるかかりつけ医がいますか



人生の最終段階における医療やケアについて
ご家族と話し合っておきたいと思いましたか？



「人生会議」や「ACP」の
言葉について



ご意見・ご感想などございましたら、ご記入ください

- ありがとうございました。永井先生のご講話は、いずれ在宅で母の介護を考えているわたくしどもにとりまして、とても具体的であると同時に先生の医の理念に今後の医療に安心と期待を抱くことができました。ありがとうございました。（60代　女性）
- さまざまな医療従事者がチームを組み、ICTを活用して、患者の「生き方」と「逝き方」を温かく支える取り組みに、感動しました。24時間、365日寄り添い、しかも医療従事者を疲弊させない工夫に関心します。終末について家族で意見が違っても、迷ってもいいのですね。父母の老いに向き合い、自分の終末を考えるうえでも、大変参考になりました。「ゆうの森」のようなケアが、全国的に広がってほしいと思います。ありがとうございました。（40代　女性）
- 人生の最終段階について自分なりに考えてはいますが、これから齢を重ねていくと変わる可能性があるかもわかりません(現在は元気なので…)。以前に夫と話したことがありますが、私とは違っています。娘は「お母さんの言う通りには少し難しいと思う」とのことです。話し合いが必要です。（80代　女性）
- とてもよい講座だった。またあればぜひ友達に勧めたい。人生会議の必要性がよく分かった。（70代　女性）
- 「家族がいなくても自宅で最期が迎えられる」のには、驚いた。（60代　男性）
- エンディングノートが何冊も集まってしまいました。この講座を機会に「もしもの為に」もしっかり読んで書きたいと思います。何回も書き直しても良いと永井先生がお話されていましたので安心して書き子供達とも話をします。（80代　女性）
- ACP 今日の講座で意味がわかった。でも説明聞いていて悲しくなった。死に向き合いきれていない複雑である。母親を見送ったばかりだが少しでも長くと思い在宅医療を続けたが、今日の講座をきいて考えなくてはいけないと思った。理事長は親切だ。患者とむきあってくださってる。思い出され涙が出た。ありがとうございました！（70代　女性）
- この講座を受けて出来るだけ早く「人生会議」もちたいと思いました。先日子供達を集めて一度、家の事、財産の事等、話し合ってきましたが具体的に（ACP）進めて行きたいと思いました。本日は貴重なお話、ありがとうございました。（80代　女性）
- かかりつけ医の先生もACPについてはよくお話をされているので相談してもらいながら事前ケア計画を進めていこうと思いました。（70代　女性）
- 医師の意識（特に往診をしていないor病院勤務）が低く、老人の死に対してここまで一緒に考えて下さる人が少ない。経験してきたことです。（70代　女性）
- とても貴重な講演ありがとうございました。在宅医療に携わっており、ACPを行っていこうとしているところです。自身の職種で何が出きるのだろうと悩むことも多くありますが、本日永井先生の講演を聞きヒントがもらえたように思いました。　（30代　女性）
- 在宅の見取りについて改めて考える機会があったことを感謝します。明日からの仕事、家族間にも役立てたいと思いました。（60代　女性）
- 永井先生のお話は、とてもわかりやすくて、いつも勉強になります。貴重な時間をありがとうございました。（50代　女性）
- 先生の、「在宅患者さんと面会したとき1回目から信頼関係を構築しなければならない」という言葉に、厳しさと温かさを感じました。また、「亡くなる瞬間にご家族の誰も見ていない状況であっても構わない」とのことを、支援者として、ご家族に伝えておくことの重要性も認識いたしました。（60代　女性）

（続き）

- 在宅看護に従事しています。色々な終末期の方と出逢います。いつもいつもACPが遅くなり本当の思いが聞けなかったり伝えれなかったりして歯痒さを感じています。日本の今までの文化や宗教観、死生感などが大きく壁に感じることもあります。ですが、目の前におられる1人の人がどうしたいのかを考え悩むことが大切だと感じます。少しでも伴走のお手伝いができるよう学び努力したいと思いました。たんぽぽ先生やたくさん在宅に関わっている人たちが頑張られているお話が聞けてよかったです。ありがとうございました。（40代　女性）
- 涙がたくさんでる話がありました。在宅での看取りをしていくには、現実的には揃わなくてはならない条件が多いと思います。しかし、それが特別ではない選択肢となるケースが増えればよいと思います。（50代　女性）
- 今回の在宅医療に関する講座は、とても参考になり、有益でした。血の通った先進的な取り組みを見せていただいたと思います。こういうケアが岡山でも広がれば、たとえ「おひとりさま」でも、おだやかな終末が迎えられるのではないかと、安心材料になりました。（50代　女性）
- 知らない事ばかりでとても勉強になりました。家族と人生会議について話したいです。両親ともコミュニケーションをもっととり大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。（30代　女性）
- 在宅医療とはどういうものか、具体的なビデオ映像をいくつも見ることにより、より分かりやすい構成になっていました。ありがとうございました。（40代　女性）
- この度は貴重な研修で大変勉強になりありがとうございました。今を生きる自分、親、家族にとってどうしていくかを考えるきっかけになり、又自分自身の仕事が高齢者に関わっていますので（ケアマネ）、とても考えさせられました。日々、仕事や生活でおわれて過ぎ去っていってしまっており、日頃から話をしていく事は大事な事と学び、高齢者の方と話をする時に何気ない事からも　ご本人の思いを聞いていきたいと思いました。高齢者とその家族の気持ちに対して、本人は死への不安を抱えていて、不安や病気からくる色々な症状に家族も不安になり、医師看護師には　その事が言いにくかったり連絡しづらい事があり、永井先生の関わり方、関係づくりを教えて頂いて、自分の不安を話してもいいんだという気持ちになりました。100人の大勢のスタッフの方が一丸となって支えておられ、病気の事だけでなく、本人や家族の思いを　みんなで共有している事が中心になっている事に感動しました。やはり永井先生が教えて下さった、死と向き合っているからできているのかなと思い、初めての訪問時は面接に行く気持ちで行かれ、2回目はないとおっしゃられ、自分自身は、なかなか1回の面談で信頼関係を築く事ができていないです。又現在誤嚥性肺炎をされた方が、施設で一口一口介助で高カロリー補食を中心に、時間をかけて本人も介助者もエネルギーと労力をかけていますが、その方の食べたいとか　思いに　本当に沿っているのか、こちら側の思いが中心になっているのではないかと感じ･･･今も今後も大きな課題です。みんな死と向き合っていないという事が本当に　その通りだと思いました。永井先生の熱き想いを頂いて　今後に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。（50代　女性）
- 永井先生の考え方がとてもすてきだと思いました。自分も先生の様に、人の人生の最期に携わる者として、しっかりしないといけないなと思いました。（30代　女性）